

【第167回打ち合わせ会報告】

開催日時:3月7日(土)14:00~17:00

出席者:竹門康弘、小林直正、成田研一、宮本水文、木村満、鄭呂尚、北尾晃一、辻本典顯(順不同・敬称略)(8名)

1. 2015年度活動計画(竹門)

京都市文化財保護課に提出する2014年度の天然記念物現状変更報告書の内容、ならびに文化庁に申請する2015年度の天然記念物現状変更申請書に盛り込む活動計画を最終調整しました。それらの内容を以下にまとめました。なお、各活動の担当者の方は、計画書の修正版をなるべく早く竹門先生にお送りいただきますようお願いいたします。申請書は5月に審議にかけられ、許可が下り次第活動を開始する予定です。そのためには3月中に京都市に申請する必要があります。

・水位、水温、水質調査(竹門)

例年通り、水位ロガーによる測定(機器を更新する必要あり)、毎週の携帯型水質計による水温、電気伝導度測定(田末さん)、および秋に市民参加型水質一斉調査を実施し、京都市が実施中の水質保全対策の効果について調査研究する。

・池および集水域の植物相調査(松井)

京都市が実施中の植生管理や水質対策にともなう植生の回復状況や、ニホンジカによる食害の現状を評価するために植生調査を行い、必要があれば希少植物保護柵を設置する。

・動物群集調査(竹門・安部倉・稲畑・辻本)

外来動物の捕獲データ(エリ網、もんどり、投網などにより捕獲)を用いて、各種構成や外来魚の個体数変動を推定し、京都市が実施中の外来魚個体群抑制対策の効果を評価する。また、夏後に沿岸部で底生動物群集の定性的なモニタリング調査を行い、動物相の経年変化を分析する。さらに、水生昆虫および飛翔昆虫については季節変化も解析できるような頻度で調査する。

・開水域のジュンサイ群落の管理手法に関する研究(北尾・辻本)

南西開水面で過剰に繁殖しているジュンサイを適正に管理する手法を開発するために、一部のジュンサイ個体群を3段階の個体群密度に刈り取る実験をしたうえで、ジュンサイの生育状況、随伴する動植物種の生育・生息状況についてモニタリング調査を実施する。

・南岸沿いの林冠枝払いによる光遮断の生物群集影響調査(加藤・宮本)

南岸の伸張した樹冠による林床や池畔の日照障害の影響を明らかにするため、伐採、枝払い試験区と対照区で、林床植物、水生植物、付着藻類、底生動物群集などをモニタリング調査する。また、同様の理由で、ヒノキ林の一部について間伐を実施する。

・ニホンジカ生育状況の把握調査(辻野・鄭)

ニホンジカの浮島への侵入と植生の踏みつけが及ぼす影響を分析するために、昨年に引き続き、赤外線センサーつき自動撮影カメラを用いたカメラトラップ調査を行い、ニホンジカの生息状況およびその経年変化を把握する。

2. 宝が池シンポジウム2015(竹門・辻本)

『宝が池シンポジウム2015/宝が池から世界へ』が3月22日に開催されます。このシンポジウムは、宝が池の森の再生に向けて、多くの市民が研究者、行政と協力しながら取り組める仕組み作りのスタートの場となることを期待して開催されます。開催日程は以下のとおりです。またシンポジウムの会場に、水生生物研究会から、①南岸の枝払い事業(深泥池池畔林研究会と連名)および②自動撮影カメラトラップにより明らかになった、ニホンジカの行動パターン(奈良教育大松井先生、辻野先生、鄭さんと連目)、に関する2枚のポスターを展示することになりました。

3. 2015年度外来魚駆除調査(竹門)

2015年度の外来魚駆除作業を4月19日(日)から開始することになりました。例年通り毎週木、日、朝9時から12時です。なお19日(日)にはもんどりを設置します。エリ網を設置する日については、次回4月5日(日)の打ち合わせ会で決定します。また、その際に安部倉さんから2014年度の駆除成果報告をしていただきます。

4. 今後の予定

3月22日(日): 宝が池シンポジウム2015(国立京都国際会館 Room B-1、無料)

開場・受付: 12時・パネル展示OPEN

シンポジウム: 13時~16時半(終了予定)

4月5日(日): 第169回打ち合わせ会(14時-17時、深泥池会館)

4月19日(日): 外来魚駆除作業開始(9時からもんどり設置)